

Asia Indicators

発表日: 2020年6月19日(金)

豪州・失業率は約18年半ぶりの7%台に悪化(Asia Weekly(6/12~6/19))

~台湾中銀は先行きの景気回復を「ナイキマーク」のようになると想定~

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/12(金)	(インド)4月鉱工業生産(前年比)	▲55.5%	--	▲18.3%
6/15(月)	(中国)5月鉱工業生産(前年比)	+4.4%	+5.0%	+3.9%
	5月小売売上高(前年比)	▲2.8%	▲2.0%	▲7.5%
	1-5月固定資産投資(前年比)	▲6.3%	▲5.9%	▲10.3%
	(インドネシア)5月輸出(前年比)	▲28.95%	▲17.98%	▲7.25%
	5月輸入(前年比)	▲42.20%	▲24.55%	▲18.60%
6/16(火)	(香港)5月失業率(季調値)	5.9%	5.5%	5.2%
6/17(水)	(シンガポール)5月非石油輸出(前年比)	▲4.5%	+1.0%	+9.7%
6/18(木)	(ニュージーランド)1-3月実質GDP(前年比)	▲0.2%	+0.3%	+1.7%
	(豪州)5月失業率(季調値)	7.1%	7.0%	6.4%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	4.25%	4.25%	4.50%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	1.125%	1.000%	1.125%

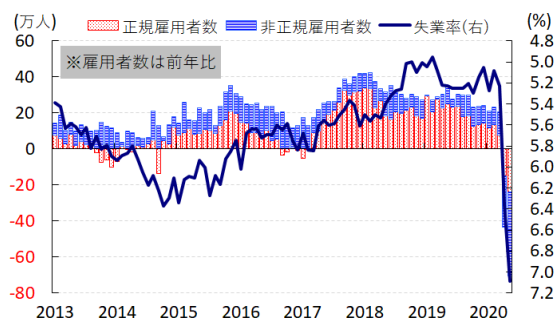
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[豪州]~外出制限緩和の動きも雇用環境は悪化が続き、失業率は18年半ぶりに7%台となるなど急激に悪化~

18日に発表された5月の失業率(季調済)は7.1%となり、前月(6.4%)から0.7pt悪化して2001年10月以来約18年半ぶりに7%台となった。失業者数は前月比+8.6万人と前月(同+12.6万人)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移している。雇用形態別でも、正規雇用に対する求職者数(前月比+6.0万人)のみならず、過去2ヶ月は底堅さがみられた非正規雇用に対する求職者数(同+2.5万人)もともに拡大するなど幅広分野で悪化している。一方の雇用者数は前月比▲22.8万人と前月(同▲60.7万人)から3ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向を強めるなど急速に悪化している。雇用形態別でも、正規雇用者数(前月比▲8.9万人)のみならず非正規雇用者数(同▲13.9万人)もともに減少傾向を強めるなど、幅広く雇用に対する調整圧力が強まっている。地域別でもすべての州で雇用者数が減少し、失業者数が増加する動きがみられるなど、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大を受けた外出制限措置の影響が出ているほか、先月以降は一転規制緩和の動きが広がっているものの厳しい状況が続いている。なお、雇用環境の急速な悪化を受けて労働力人口は前月比▲14.2万人と前月(同▲48.2万人)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど労働市場からの退出の動きが強まっている。結果、労働参加率は62.9%と前月(63.6%)

から▲0.7pt 低下しており、2001年1月以来約19年半ぶりの低水準となっている。

図1 TW 雇用環境の推移

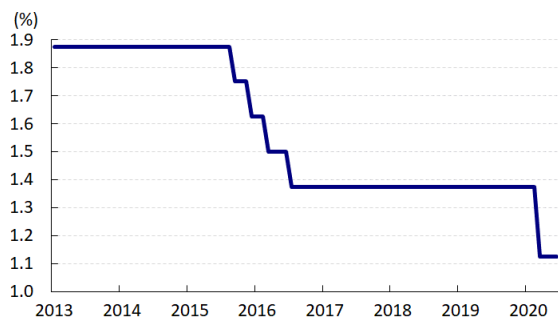


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～金融市場の混乱一巡、新型肺炎の感染収束で中銀は「様子見」、先行きの景気は「ナイキマーク」を想定～

18日、台湾中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を1.125%に据え置く決定を行った。同行は3月の前回の定例会合において4年弱ぶりとなる利下げを実施したほか、利下げ幅も25bpと同行が従来行ってきた小刻みな調整幅(12.5bp)を上回るなど、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)による景気への悪影響が懸念されるなかで大幅利下げを実施した。なお、その後は国際金融市場が落ち着きを取り戻しているほか、台湾域内では新型肺炎を巡る事態収束が図られていることを受けて様子見姿勢に転じた。会合後に公表された声明文では、足下の世界経済について「主要国での相次ぐ都市封鎖措置が解除による経済活動の再開を受けて、景気後退からの回復が見込まれるものの、新型肺炎の動向や米中関係、国際金融市場の脆弱性、地政学リスクなどが不確実性になる」との見方を示した。一方、同国経済については「内・外需双方で景気に下押し圧力が掛かったが、先行きは外需に不透明感が残るものの、社会的距離規制の緩和や消費喚起策などを背景に内需の底入れが期待出来る」とし、「今年通年の経済成長率は+1.52%になる(3月時点は+1.92%)」との見通しを示した。また、物価動向については「足下でマイナスとなっているが、年後半にかけては国際原油市況の持ち直しの動きを反映して上昇する」とし、「今年通年のインフレ率は+0.01%、コアインフレ率は+0.36%になる(3月時点は各々+0.59%、+0.55%)」と下方修正した。また、会合後に記者会見に臨んだ同行の楊金龍総裁は、足下の状況について「財政及び金融政策は効果を挙げるなかで流動性は充分であり、デフレに陥る心配はない」との考えを示すとともに、「今年プラス成長を記録出来る数少ない国のひとつになる」との見通しを示すとともに、景気回復ペースについて「『ナイキマーク』のような感じになる」との見方を示した。その上で、「マイナス金利は家計消費を喚起することはない」とマイナス金利の導入を否定する考えを示す一方、今回の決定について「低金利政策は効果を挙げており、追加利下げの可否について様子見を図ったもの」とするなど、追加利下げの可能性に含みを持たせた。

図2 TW 政策金利の推移

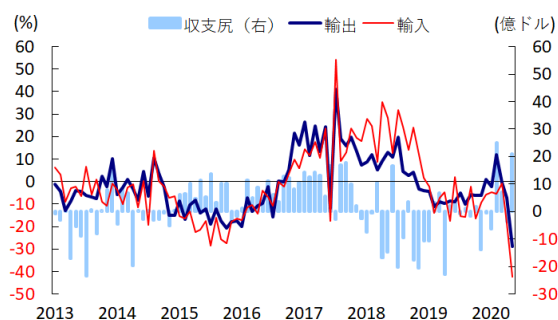


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～外出制限による経済活動の低迷を反映して、輸出入ともに11年強ぶりのマイナスの伸びに～

15日に発表された5月の輸出額は前年同月比▲28.95%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲7.25%)からマイナス幅も拡大して2009年2月以来11年強ぶりのマイナス幅となった。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月連続で減少している上、減少ペースも加速しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど急速に頭打ちしている。国際原油市況の底入れの動きを反映して原油や石油製品、天然ガス関連の輸出額が押し上げられる一方、製造業関連や農産品関連などを中心に輸出額に大きく下押し圧力が掛かり、輸出全体の足かせとなっている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)を受けた世界経済の減速懸念に加え、同国内での感染拡大に伴う外出制限の動きも輸出関連業務の停滞を招いたことも重石になったとみられる。一方の輸入額は前年同月比▲42.20%と11ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲18.60%)からマイナス幅も拡大して2009年4月以来11年強ぶりのマイナス幅となった。前月比も2ヶ月連続で減少している上、減少ペースも加速しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど輸出同様に頭打ちの様相を強めている。国際原油市況の底入れにも拘らず原油及び天然ガス関連の輸入額に下押し圧力が掛かっているほか、原油・天然ガス以外の輸入も低迷しており、外出制限による経済活動の低迷が輸入の足かせになっていると考えられる。結果、貿易収支は+20.92億ドルと前月(▲3.72億ドル)から2ヶ月ぶりの黒字となった。

図3 ID 貿易動向の推移



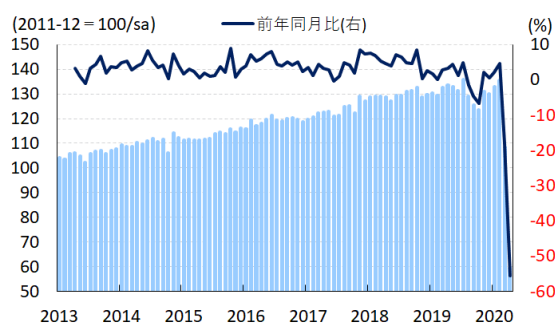
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド]～外出禁止令による経済活動低迷を受けて、分野を問わず幅広く急速に減産圧力が強まる展開に～

12日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比▲55.5%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲18.32%)からマイナス幅も拡大して現行基準の下で最も大きなマイナス幅となった。当研究

所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少している上、減少ペースも大きく加速しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど急速に頭打ちしている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大を受けた外出禁止令の発動を受けて、幅広く経済活動に悪影響が出ているほか、多くの向上が操業停止に追い込まれていることも大幅な生産下押しに繋がった。国際商品市況の低迷を受けて鉱業部門の生産に下押し圧力が掛かったほか、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)による世界経済の減速懸念も相俟って製造業の生産の大幅に低迷するなど、幅広い分野で減産圧力が急速に強まっている。財別でも、耐久消費財を中心に大幅な減産圧力が掛かっており、それに伴い中間財や資本財など川上の分野でも減産圧力が強まるなど、全般的に減産の動きが広がっている様子がうかがえる。

図4 IN 鉱工業生産の推移

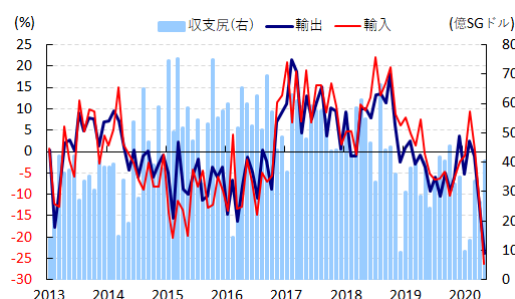


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成、季調値は当社試算

[シンガポール]～新型肺炎の世界的大流行による貿易停滞の動きを反映して、輸出入双方に下押し圧力～

17日に発表された5月の非石油輸出額は前年同月比▲4.5%となり、前月(同+9.7%)から4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲4.5%と前月(同▲5.1%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの様相を強めている。主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連で頭打ちの動きが強まっているほか、化学関連の輸出額も大きく鈍化するなど、全般的に輸出に下押し圧力が掛かっている。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)に伴う世界経済の減速や、それを受けた世界的な物流滞留の動きが輸出の足かせになっている可能性がある。原油関連を併せた総輸出額も前年同月比▲23.9%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲12.7%)からマイナス幅が拡大している。前月比も▲2.5%となり、国際原油市況の底入れにも拘らず前月(同▲10.5%)から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど頭打ちしている。一方の輸入額は前年同月比▲26.2%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲13.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲8.4%と前月(同▲9.8%)から4ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向を強めるなど輸出同様に頭打ちしている。輸出の先行き不透明感に伴う原材料及び素材・部材関連の需要減に加え、同国経済の減速懸念も輸入の足かせになっている。結果、貿易収支は+40.41億SGドルと前月(+26.32億SGドル)から黒字幅が拡大している。

図5 SG 貿易動向の推移

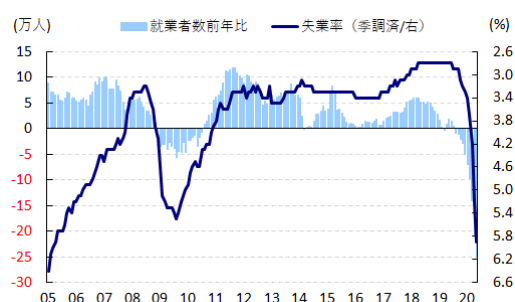


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～幅広い分野で雇用・所得環境は急激に悪化しており、失業率は約 15 年ぶりの水準に大幅に悪化～

16日に発表された5月の失業率(季調値)は5.9%となり、前月(5.2%)から0.7pt悪化して2005年4月以来約15年ぶりの水準となった。失業者数は前年同月比+11.6万人と13ヶ月連続で拡大している上、前月(同+9.0万人)から拡大ペースが加速しており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のパンデミック(世界的大流行)による世界経済の減速及びヒトの移動制限などを受けて、小売関連や観光関連、食品サービス関連を中心に悪化傾向が強まっている。これらの分野では、2003年の中国本土でのSARS(重症呼吸器症候群)を上回るペースで悪化が続くなど、足下の状況が極めて深刻であることを示唆している。一方、雇用者数も前年同月比▲25.0万人と前月(同▲20.8万人)を上回るペースで減少しており、上述した分野のほか、建設関連やIT関連、教育関連、文化・芸術・娯楽関連など幅広い分野で減少傾向が強まっている。雇用・所得環境の急激な悪化を受けて、労働力人口も前年同月比▲13.3万人と前月(同▲11.8万人)を上回るペースで減少しており、先行きについてもしばらくは一段と悪化傾向を強める可能性が高いと見込まれる。

図6 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。